

特別支援教育研究論文集

—令和3年度 特別支援教育研究助成事業—

研究協力：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

知的障害特別支援学校における自己肯定感の向上を目指した実践
—就労につなげるために—

徳島県立池田支援学校

指導教諭 藤本 豊春

令和4年3月

公益財団法人みずほ教育福祉財団

目 次

要旨	1
第1章 はじめに	2
第1節 研究の背景	2
第2節 実践研究の趣旨	3
第2章 自己肯定感を測る指標	4
第1節 自尊感情や自己肯定感に関する研究紀要より	4
1 自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」と「他者評価シート」	4
第3章 実践	6
第1節 徳島県西部版就労支援チェックリスト	6
1 導入の理由	6
2 導入の方法	6
3 徳島県西部版就労支援チェックリストの特徴	6
4 アンケート結果とまとめ	8
第2節 地域貢献活動	13
1 導入の理由	13
2 地域貢献活動の位置づけ	13
3 地域貢献活動の実施状況	14
4 アンケート結果とまとめ	18
第3節 自分ノート（キャリア・パスポート）	19
1 キャリア・パスポートの導入について	19
2 本校の「自分ノート」について	20
3 「自分ノート」の活用事例	24
4 アンケート結果とまとめ	25
第4節 GJ（グッドジョブ）カード	27
第4章 考察	28
第1節 「自己評価シート」の結果	28
第2節 「他者評価シート」の結果	29
第3節 自己肯定感の向上から就労する力に	32
第5章 おわりに	33
引用文献・参考文献	33
謝辞	34

要旨

筆者は、平成 28 年度より本校高等部に所属している。その当時から本校高等部の生徒には特徴があった。「自分の行動に自信がもてない」「自分の言いたいことを表現することができない」「自分の置かれた状況を理解できていない」など自己理解ができておらず、自分に自信がもてない生徒が多かった。この目の前にいる生徒を「良くしたい」という一人の教員として、利用できる先行事例を集め、実践してきた。

平成 29 年度には、就労に必要な要素を可視化し、生徒は自己理解、保護者は子ども理解、教員は生徒の現状を理解しやすい「徳島県西部版就労支援チェックリスト」²⁾ (以下「就労支援チェックリスト」)、平成 30 年度には、地域で貢献する「地域貢献活動」、令和 2 年度には、活動記録を教員と主体的・対話的に振り返る「自分ノート (キャリア・パスポート)」、令和 3 年度は、生徒の自発的な行動に教員が感謝をカードに記入する「G J (グッドジョブ) カード」を実践した。これらの実践を通じて、いかに現状を改善し、自己肯定感を育む活動につながったかを報告する。

「就労支援チェックリスト」については、徳島県西部就労支援部会で作成された就労継続支援 B 型を利用するための指標を本校で使用した結果を報告する。

本校は、徳島県西部に位置し、地域交流を基盤とした教育活動を展開してきた。この交流の経験を発展させ、「地域貢献活動」を実施した。本稿では、「地域貢献活動」については、参加した生徒の意欲の変化を報告する。

新学習指導要領の特別活動においては、キャリア・パスポートの導入が推進されており、本校高等部でも自己肯定感や自己理解を進めるために「自分ノート」として導入した。自分ノートは、学校、家庭及び地域における学習や生活に見通しを立て、学んだことを教員と対話したことについての実践も報告する。

生徒の自発的で主体的な活動に対して、教員の感謝の気持ちを「G J (グッドジョブ) カード」に記入して生徒に手渡す活動の結果も報告する。

これらの活動を通じて、自己肯定感についての評価を実施した。先行研究として平成 20 年度から平成 24 年度まで東京都教職員研修センターで研究された「自尊感情や自己肯定感に関する研究」¹⁾を利用して自己肯定感の変化を数値化することで、本校が実践してきた「就労支援チェックリスト」「地域貢献活動」「自分ノート」「G J (グッドジョブ) カード」により、生徒がどのように変化し、自己肯定感が育まれたかを報告する。

最後に、就労に対して自己肯定感の向上がどのようにつながっていったのかを考察する。

キーワード：就労支援チェックリスト、地域貢献活動、自分ノート、G J (グッドジョブ) カード、自己肯定感の向上と就労する力

第1章 はじめに

第1節 研究の背景

筆者が、平成28年度に高等部所属になった時、「自分に自信がもてない」「対人関係で不安定になる」生徒が多かったが、その裏付けとして精神的な不安定による保健室利用率（表1）が物語っている。

表1 精神的な不安定による保健室利用率（高等部）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
高等部生徒数	32	33	40	39	38
全利用数	273	302	396	356	273
精神的理由による利用数	113	128	158	202	146
全利用数に占める 精神的理由による利用率	41.4%	42.4%	39.9%	56.7%	53.5%

この記録によれば、保健室の利用率は、平成28年度から年々増加傾向にあり、特に精神的な不安定を理由とする保健室利用が増加しており、全利用数に占める精神的理由による利用率の増加は顕著である。表2に示す徳島県西部こども女性相談センターは、徳島県西部に設置されている児童相談、女性相談に必要な助言や援助を実施している児童相談所である。この相談機関を利用したことがある本校高等部生徒の保護者の数を「徳島県西部こども女性相談センターへの相談経験数」とし、全高等部生徒に占める相談者数を相談経験率とした。表2のように相談経験数では、ここ数年、高水準で推移している。

表2 徳島県西部こども女性相談センター相談経験数（高等部）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
高等部生徒数	33	33	40	39	38
子ども女性相談センターへの相談経験数	21	21	24	23	24
子ども女性相談センターへの相談経験率	63.6%	63.6%	60.0%	59.0%	63.2%

表1、表2の結果から、本校の生徒は「自己肯定感」が十分に育っていない背景が考えられ、卒業後、地域社会などで社会人として生きていくためには「自己肯定感」を育む必要があると考え、実践することにした。

第2節 実践研究の趣旨

まず最初に、自尊感情、自己肯定感の表記について確認しておく。自尊感情及び自己肯定感はほぼ同義で使用していることが多いため、ここでは、混乱を防ぐため自己肯定感に統一して表記する（一部固有名称は除く）。

筆者が勤務する知的障害特別支援学校高等部においては、感情や行動の制御が困難な生徒が多く在籍している。それに加えて、家庭問題を抱えている生徒が多く、自己肯定感が低い生徒が非常に多い。この実践研究では、図1に示すように、「自己評価シート」及び「他者評価シート」で実態を把握し、本校高等部で実践してきた「就労支援チェックリスト」、「地域貢献活動」、「自分ノート」、「G J（グッドジョブ）カード」を活用したことで生徒の自己肯定感にどのように作用したかを考察していく。

さらに、生徒の自己肯定感の変容によって、学校生活や就業体験を乗り越え、就労意欲につながったかを考察する。

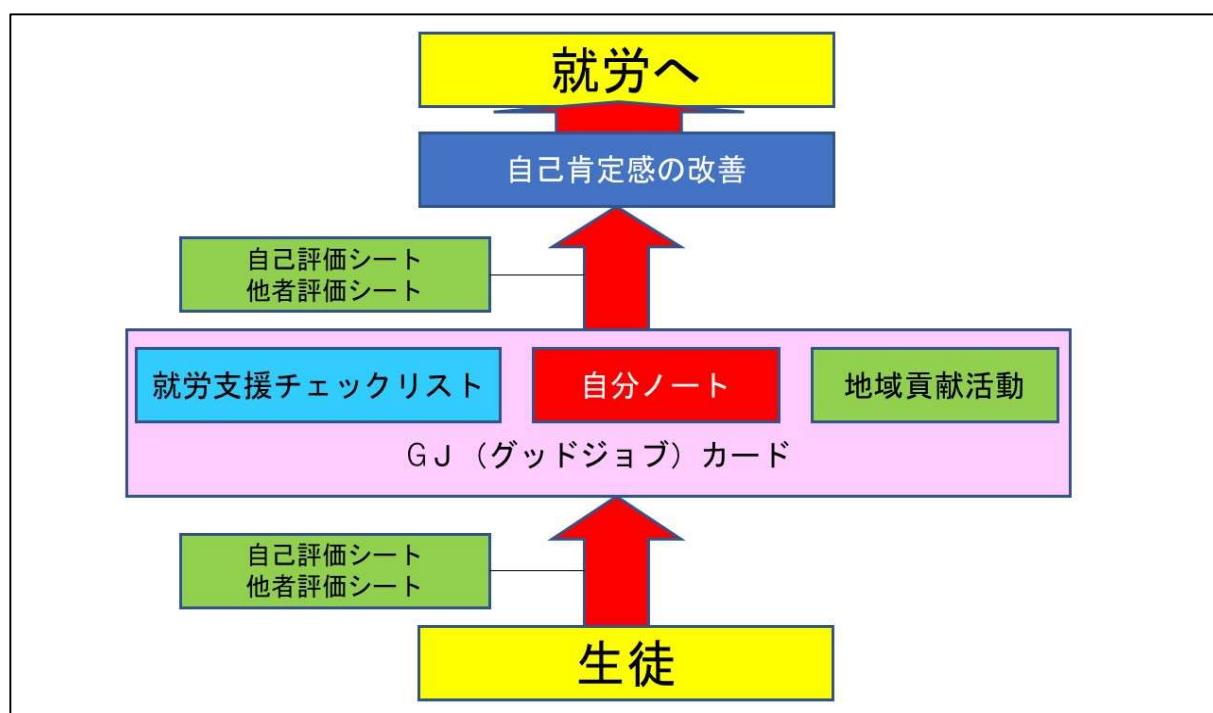


図1 実践研究のイメージ

ここに、公益財団法人みずほ教育福祉財団の特別支援教育研究助成金により「知的障害特別支援学校における自己肯定感の向上を目指した実践－就労につなげるために－」というテーマで研究に取り組むことにした。これにより、自己肯定感が低い生徒たちが地域の中で生き生きと生活し、就労できるようになるための一助となればと考えている。

第2章 自己肯定感を測る指標

第1節 自尊感情や自己肯定感に関する研究紀要より

今回の研究では、平成 20 年度から平成 24 年度まで東京都教職員研修センターで研究された「自尊感情や自己肯定感に関する研究」¹⁾を活用する。この研究の中では、自尊感情及び自己肯定感の指標として「自尊感情測定尺度（東京都版）」の「自己評価シート」と「他者評価シート」を利用した。実践を紹介する前に、指標として利用した「自己評価シート」と「他者評価シート」を紹介する。2つのシートのデータは入力シートに入力するとグラフ化される。

1 自尊感情測定尺度（東京都版）「自己評価シート」と「他者評価シート」

(1) 「自己評価シート」

質問に対して、自分の気持ちに近い数字に○をつけてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかといえばあてはまる」場合は3、「どちらかというにあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○で囲んでください。

<記入例>

例) 冬よりも秋が好きである

あてはまる どちらかと どちらかと あてはま
まる いふと いふと らない
4 3 2 1

No.	項 目	4	3	2	1
1.	私は今の自分に満足している。	4	3	2	1
2.	人の意見を素直に聞くことができる。	4	3	2	1
3.	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる。	4	3	2	1
4.	私は自分のことが好きである。	4	3	2	1
5.	私は人のために力を尽くしたい。	4	3	2	1
6.	自分の中には様々な可能性がある。	4	3	2	1
7.	自分はダメな人間だと思ふことがある。	4	3	2	1
8.	私はほかの人の気持ちになることができる。	4	3	2	1
9.	私は自分の判断や行動を信じていることができる。	4	3	2	1
10.	私は自分という存在を大切に思ふ。	4	3	2	1
11.	私には自分のことを理解してくれる人がいる。	4	3	2	1
12.	私は自分の長所も短所もよく分かっている。	4	3	2	1
13.	私は今の自分は嫌いだ。	4	3	2	1
14.	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任を持って取り組む。	4	3	2	1
15.	私には誰にも負けないもの(こと)がある。	4	3	2	1
16.	自分には良いところがある。	4	3	2	1
17.	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している。	4	3	2	1
18.	私は自分のことは自分で決めたいと思う。	4	3	2	1
19.	自分は誰の役に立っていないと思う。	4	3	2	1
20.	私には自分のことを必要としてくれる人がいる。	4	3	2	1
21.	私は自分の個性を大事にしたい。	4	3	2	1
22.	私は人と同じくらい価値のある人間である。	4	3	2	1

以上で、質問は終わります。表紙を上にして、先生の指示があるまで静かに待っていてください。

図2 「自己評価シート」

(2)「他者評価シート」

東京都教職員研修センターによれば、「他者評価シート」は、特別支援学校や特別支援学級等の児童・生徒や就学前の幼児等、「自己評価シート」による自己評価を行うことが難しい生徒の自己肯定感の傾向を把握することを目的としたものである。

自尊感情の傾向を把握するための「他者評価シート」

質問に対して、記名をした子供の状況に近い数字に○を付けてください。

「あてはまる」場合は4、「どちらかというあてはまる」場合は3、

「どちらかというとあてはまらない」場合は2、「あてはまらない」場合は1を○でかこんでください。

「他者評価シート」実施日 月 日 (No.)

No	観点	項目	あてはまる	どちらかというあてはまる	どちらかというあてはまらない	あてはまらない	具体的な姿
		各項目は、学校で把握する場合には、授業中や休み時間などにおける現在の状況について回答してください。					該当する□にチェックをして、自己の指導を振り返りましょう。 □は、各項目のイメージを補うための具体的な姿としました。対象の子供の活動場面を想起する際の参考としてください。
1	① 人への働き掛け	自分から友達に働き掛ける。	4	3	2	1	☐ 自分から友達に話し掛けたり、一緒に遊んだりしている。 ☐ 友達の使っている物を貸してほしい時や友達と遊びたい時など、自分から友達に言葉掛けなどをしている。
2		日常的に交流の少ない相手にも関わる。	4	3	2	1	☐ 学校に来た人などに挨拶している。 ☐ 学級以外の教員や友達に会った時に、相手の質問に応じたり、話し掛けたりしている。
3		自分の思いや意見を何らかの手段で表現する。 (手段:表情、身振り、音声や簡単な言葉、補助手段など)	4	3	2	1	☐ やりたいことや、やって欲しいこと、欲しい物などを、表情や身振りで相手に伝えている。 ☐ やりたいことや、やって欲しいこと、欲しい物などを、音声や簡単な言葉で表現している。
4		集団の中で意欲的に行動する。	4	3	2	1	☐ みんなの前に出て活動に参加している。 ☐ 友達や教員の動きを見て、自分でも挑戦している。
5	② 大人との関係	特定の大人を信頼して心を開く。	4	3	2	1	☐ 担任や保護者など特定の大人が近くにいることで、落ち着いて取り組んでいる。 ☐ 担任や保護者など特定の大人に自分の気持ちを伝えたり、大人の話の聞いたりしている。
6		大人との関わりを受け入れる。	4	3	2	1	☐ 担任以外の教員などの大人の話の聞いている。 ☐ 担任以外の教員などの大人からの言葉掛けで、一緒に活動している。
7		自分から身近な大人に関わる。	4	3	2	1	☐ 自分から家族や教員に、話し掛けたり、遊んだりしている。 ☐ 自分の知っている大人に話し掛けたり、相手の顔を見たりしている。
8	③ 友達との関係	友達との関わりを受け入れる。	4	3	2	1	☐ 友達の話を聞いている。 ☐ 友達からの言葉掛けで、一緒に活動している。
9		友達のことを考える発言する。	4	3	2	1	☐ 友達を励まし、たり認めたりするなど、相手の気持ちになって言葉掛けをしている。 ☐ やってはいけないことを注意するなど、友達のためになることを助言している。
10		友達のことを考えて行動する。	4	3	2	1	☐ 友達が困っているとき助けるなど、友達のためになることをしている。 ☐ 友達の気持ちを察して、自分勝手な行動をしない。
11	④ 落ち着き	自分から気持ちを立て直す。	4	3	2	1	☐ 気持ちの高ぶっているときなどに、自分で気持ちを落ち着かせている。 ☐ 嫌なことや苦手なことなどに対して、気持ちを整えて取り組もうとしている。
12		これまでできなかったことに取り組む姿勢が見られる。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、一人で取り組めることが増えている。 ☐ 教員や友達など、人との関わり方がよくなってきている。
13		一つのことを最後まで取り組む姿勢が見られる。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、分担の仕事を教員から指示を受けてやり遂げようとしている。 ☐ 学習や係活動などで、分担の仕事を自分でやり遂げようとしている。
14		自分の行動を自分で決める。	4	3	2	1	☐ 学習や係活動などで、やりたいことを自分で選択している。 ☐ 学習や係活動などで、やることを分かって取り組んでいる。
15	⑤ 意欲	肯定的な言葉掛けにより安定する。	4	3	2	1	☐ 褒められることにより、気持ちが落ち着く。 ☐ 失敗したり叱られたりして、気持ちが沈んだりしていても、励まされることで気持ちが落ち着く。
16		肯定的な言葉掛けにより嬉しそうにする。	4	3	2	1	☐ 褒められることにより、笑顔になったり、嬉しそうな様子が見られたりする。 ☐ 自分の行いが認められることで、嬉しい様子を身体で表現している。
17		新しいことができると嬉しそうにする。	4	3	2	1	☐ 新しい学習や活動などに取り組むことができたとき、笑顔になったり、嬉しそうな表情になったりしている。 ☐ これまでできなかったことができたとき、笑顔になったり、嬉しそうな表情になったりしている。
18		肯定的な言葉掛けにより次への意欲につながる。	4	3	2	1	☐ 褒められることで、自分から次の課題に取り組もうとしている。 ☐ 自分の行いが認められることで、学習や係活動などに意欲的に取り組む。
19	⑥ 場に合わせて行動	相手の要求を受け入れる。	4	3	2	1	☐ 欲しいものが友達と重なったときに、友達に譲っている。 ☐ 自分の本意でなくても、友達や教員から頼まれたら、断らずに取り組む。
20		相手の指示を受け入れる。	4	3	2	1	☐ 授業中や授業以外のときに、教員の言うことに従っている。 ☐ 自分の本意でなくても、教員や友達から言われたことを理解し、断らずに取り組む。
21		ルールを守って行動する。	4	3	2	1	☐ 身の回りのものを所定の場所に置いたり、列に並んで順番を待ったりするなど、決まりを理解して行動している。 ☐ 他人の持ち物を勝手に使わないなど、してはいけないことを守っている。
22		集団の雰囲気になじんでいる。	4	3	2	1	☐ 集団の活動の中で、友達がいることに安心をもっている。 ☐ 集団の活動の中で、友達と共に活動している。
23		集団の活動に合わせて行動する。	4	3	2	1	☐ 集団の活動の中で、早くやっても自分の順番を待っている。 ☐ 集団の活動の中で、教員や友達を見て、みんなと合わせた動きをしている。
24		状況に応じて臨機応変に行動する。	4	3	2	1	☐ 予期しない事態になっても、気持ちを落ち着けて、状況に応じて行動している。 ☐ 自分の順番でも困っている友達に譲ったり、自分の欲しい物でも下級生に譲ったりしている。

図3 「他者評価シート」

第3章 実践

第1節 徳島県西部版就労支援チェックリスト

1 導入の理由

先にも述べたが、高等部には家庭生活等に困難さがあり「こども女性相談センター」へ相談経験のある生徒が60%前後で推移していた（表2）。

そのため、保護者との連絡を取りづらく、学校からの通知物を見ておらず、学校行事（運動会や文化祭）や進路相談に欠席することも多く、保護者・生徒・教員の間での生徒の状況を共有することが困難な場合が多かった。その結果、生徒、保護者ともに卒業後の生活をイメージしにくい状況にあった。図4の卒業後の生活イメージ率（保護者：平成28年度）によると、卒業後、子どもがどのように生活するかをイメージできている保護者は35%しかおらず、保護者の65%はイメージできていないという結果であった。また、図5の卒業後の生活イメージ率（全学年生徒平均：平成28年度）に至っては、イメージできている生徒は9%しかおらず、91%の生徒は、卒業後のイメージができていない状態であった。

このような状況を改善するために、生徒は自分自身の状態を理解しやすく、保護者は子どもの状態を理解しやすく、教員は生徒や保護者に状態を説明しやすくするために、「就労支援チェックリスト」を導入することにした。

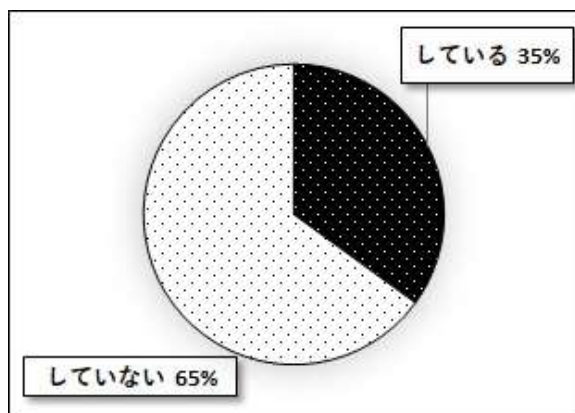


図4 卒業後の生活イメージ率
（保護者：平成28年度）

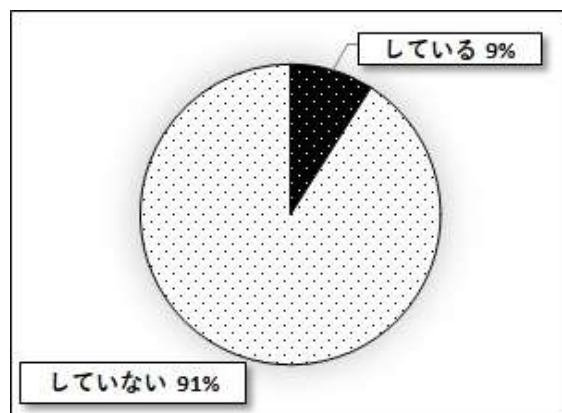


図5 卒業後の生活イメージ率
（全学年生徒平均：平成28年度）

2 導入の方法

- （1）生徒、保護者、教員に対して、それぞれ「生徒と保護者が、どれくらい卒業後の進路に関心があるか」についてアンケート調査を実施する。
- （2）就労支援チェックリストを進路相談等に活用した結果について評価する。

3 徳島県西部版就労支援チェックリストの特徴

このチェックリストは、徳島県西部就労支援部会において検討改善し、平成28年4月1日に

完成したものである。市町村が、就労継続支援B型等の福祉サービスの支給決定を行ううえで、本人の就労能力を評価し、把握するためのアセスメントとして利用されている。項目がわかりやすく、評価しやすいことが特徴である。

(1) チェックリストの構成

チェックリストは次の3分類で構成されている。①日常生活（日常生活全般のスキルをチェックする項目：図6）、②対人関係（働く場での対人関係をチェックする項目：図7）、③働く場での行動態度（働く場でのスキルをチェックする項目：図8）の3分類から構成されている。チェック項目には記入上の注意点がある。各項目には段階チェックがあり、あてはまるもの1つに○をつける。

4段階チェックにおける各段階の達成の目安は、次の通りである。

- 1・できる/手助けを必要としない（80～100%）
- 2・ほぼできる/手助けがあればできる（60～70%程度）
- 3・ときどきできる/手助けがあればできるときもあればできないときもある（40～50%程度）
- 4・できない/手助けがあってもできない（30%以下）

(2) チェックリストの項目

Ⅰ 日常生活												
チェック項目	年 月 日				年 月 日							
I-1. 決まった時間に起床できる	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-2. 規則正しい生活が出来る	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-3. 規則正しく食事をとることができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-4. 決められた時間、量の薬を飲むことができる (定期的服薬をしている人のみ回答)	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-5. 定期通院ができている (定期的通院をしている人のみ回答)	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-6. 体調不良時の対処ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-7. 金銭管理ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
I-8. 自分の障害や症状の理解ができている	1	2	3	4	1	2	3	4				

図6 日常生活（一部抜粋）

Ⅱ 対人関係												
チェック項目	年 月 日				年 月 日							
II-1. あいさつができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-2. その場に応じた会話ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-3. 相手や、場に応じた言葉使いができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-4. 非言語的コミュニケーションができる (ジェスチャー等)	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-5. 他の人と協力できる	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-6. 感情が安定している	1	2	3	4	1	2	3	4				
II-7. 意思表示ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				

図7 対人関係（一部抜粋）

Ⅲ 働く場での行動・態度												
チェック項目	年 月 日				年 月 日							
III-1. 一般就労への意欲がある	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-2. 作業意欲がある	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-3. 自分の就労能力が分かっている	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-4. 働く場のルールを理解している	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-5. 仕事の報告ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-6. 欠勤等の連絡ができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-7. 欠勤・遅刻・早退がない	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-8. 積極的に作業に取り組むことができる	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-9. 決められた時間作業ができる (持続力)	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-10. 求められる作業速度である	1	2	3	4	1	2	3	4				
III-11. 作業能率が向上できる	1	2	3	4	1	2	3	4				

図8 働く場での行動・態度（一部抜粋）

（３）高等部における就労支援チェックリストの利用方法

就労支援チェックリストの利用方法については表３のようになっている。まず５月の「前期個別の指導計画」作成時に、就労支援チェックリストの視点を取り入れて作成し、個別の指導計画懇談週間で保護者に現状を説明しニーズを把握する。その後、第１回評価を前期就業体験後に実施し、夏季休業中の家庭訪問にて、課題等を生徒、保護者に説明する。その後、「前期個別の指導計画」の評価を経て、１０月には、前期と同様に「後期個別の指導計画」を就労支援チェックリストの視点を取り入れて作成する。後期就業体験後に第２回評価を実施し、１月の進路相談で、現状と課題、今後の目標等について話し合い、生徒の実態によっては、職業等の授業の中で「自己評価」を実施している。図６「日常生活」については、家庭生活や施設生活に関係する内容が多いため、保護者や施設職員の協力を得て作成しており、教員は、図７「対人関係」、図８「働く場での行動・態度」をチェックしている。就労支援チェックリストで、生徒の現状をチェックし、学習における課題をチェックし、「個別の指導計画」を作成し、課題を学習する。これによって就労する力を把握している。生徒自身も学習の成果がわかりやすく、課題もわかりやすく現状を把握できるように振り返りにも利用している。

表３ 就労支援チェックリストの利用時期

時 期	内 容
５ 月	就労支援チェックリストの視点で前期個別の指導計画を作成・説明
６ 月	前期就業体験
７ 月	第１回評価の実施（教員評価・自己評価）
８ 月	家庭訪問（評価説明）
９ 月	前期個別の指導計画の評価
１０月	就労支援チェックリストの視点で後期個別の指導計画を作成・説明
１１月	後期就業体験
１２月	第２回評価（教員評価・自己評価）
１ 月	授業参観及び進路相談（評価説明）
２ 月	後期個別の指導計画の評価

４ アンケート結果とまとめ

「就労支援チェックリスト」を利用することで、生徒には「今の自分の学習状況を理解することができたのか」、保護者には「今の子どもの学習状況を理解することができたのか」、教員には「生徒や保護者に進路に必要な学習を伝えることができたのか」という３点についてアンケートを実施した。

① 生徒へのアンケート結果

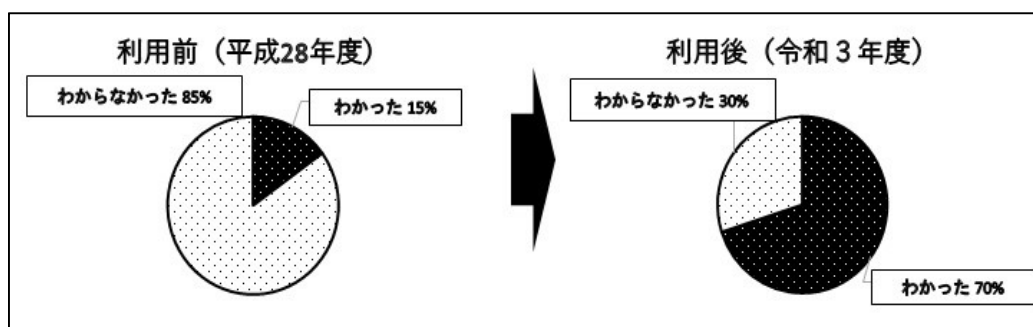


図9 希望する進路に必要な学習がわかりましたか？

平成28年度に「必要な学習がわかった」が15%であったが、令和3年度には70%となり、約4倍強の生徒が自身の進路に必要な学習がわかったと答えた。この結果から、就労支援チェックリストを使って説明することにより、生徒が必要な学習を理解しやすくなったと言える。

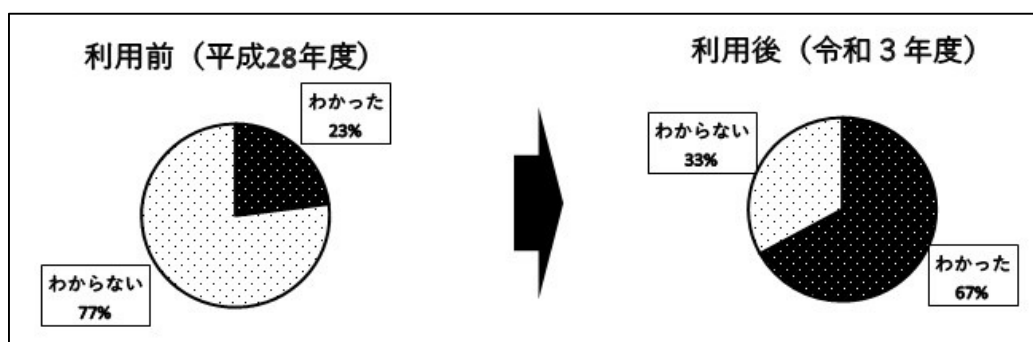


図10 先生の説明を聞いて自分にとって必要な学習内容がわかりましたか？

平成28年度に「必要な学習内容がわかった」と答えた生徒が23%であったが、令和3年度には67%となり、約3倍に増加した。教員から就労支援チェックリストを使って説明を受けたことで、自分に必要な学習を理解しやすくなったと言える。

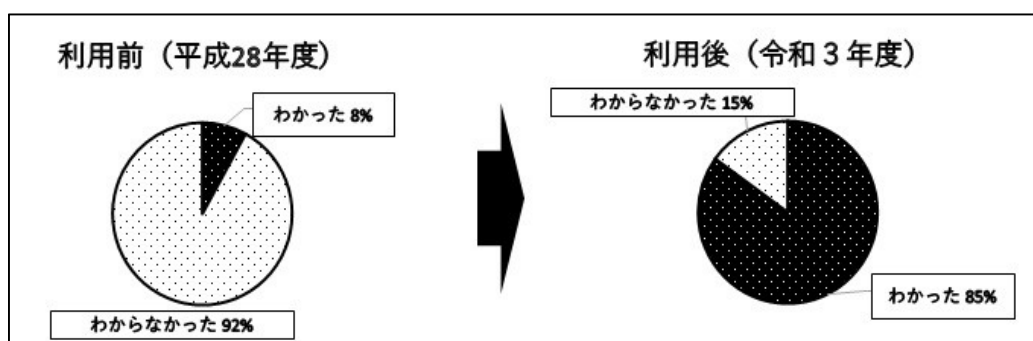


図11 先生の説明で、現在の自分の学習状態がわかりましたか？

平成28年度に「現在の学習状態がわかった」と答えた生徒が8%であったが、令和3年度には85%と10倍以上に増加した。就労支援チェックリストを使った説明により、現在の学習状態をより客観的に理解することができたと言える。

② 保護者へのアンケート結果

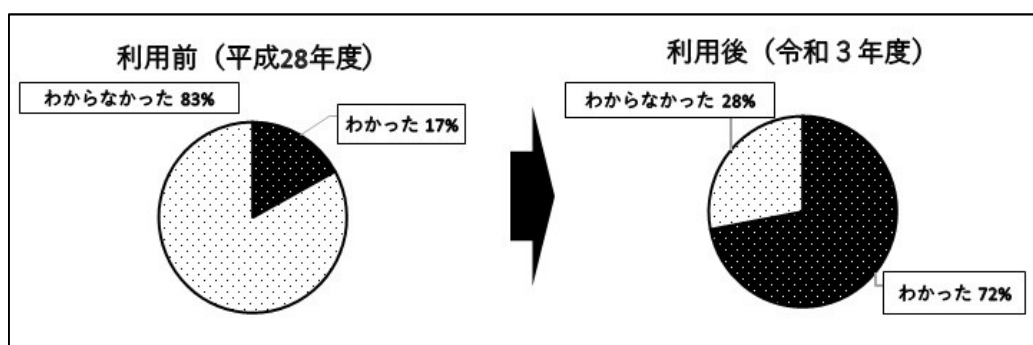


図 12 教員からの説明でお子様に必要な学習がわかりましたか？

平成 28 年度には「必要な学習がわかった」と答えた保護者が 17%であったが、就労支援チェックリストを使って説明することで、72%の保護者が「わかった」と回答した。「個別の指導計画」での説明や「進路相談」の際に利用することで有効であった。

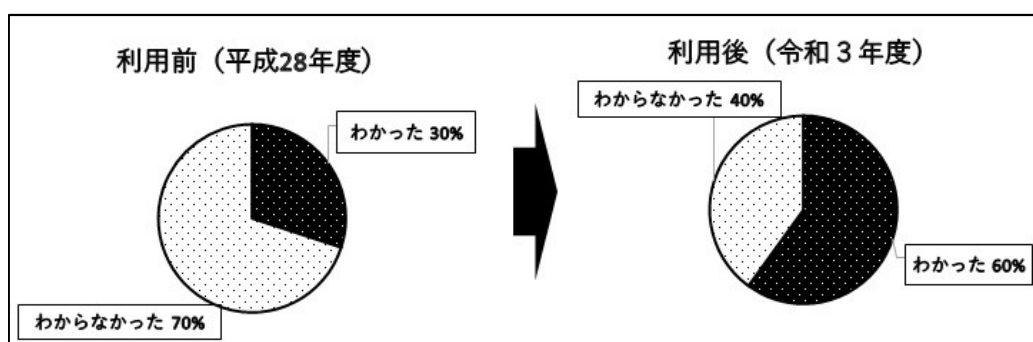


図 13 教員からの説明でお子様が希望する進路に必要な力はわかりましたか？

平成 28 年度には「必要な力がわかった」と答えた保護者が 30%であったが、就労支援チェックリストを使って説明することで、60%の保護者が「わかった」と回答した。就労支援チェックリストは、わかりやすく、イメージしやすくなるとの意見が多くあった。

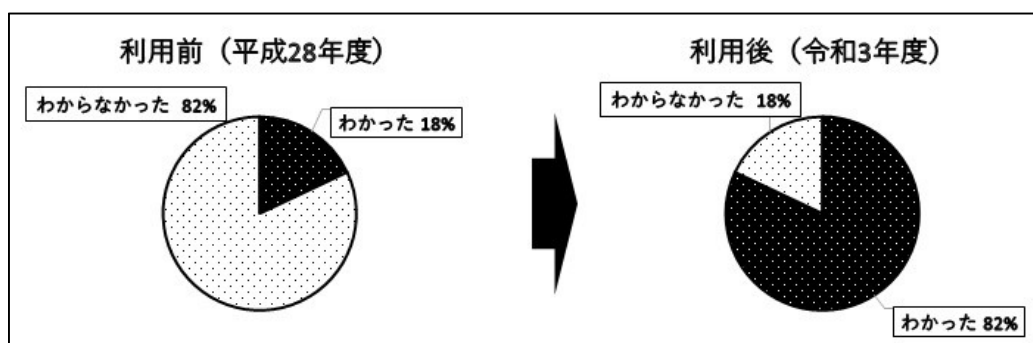


図 14 教員からの説明でお子様のできている所やできていない所がわかりましたか？

平成 28 年度に「わかった」と答えた保護者が 18%であったが、就労支援チェックリストを使うことで82%に増加した。就労支援チェックリストはできているところと、できていないところが明確に表記されているためだと言える。

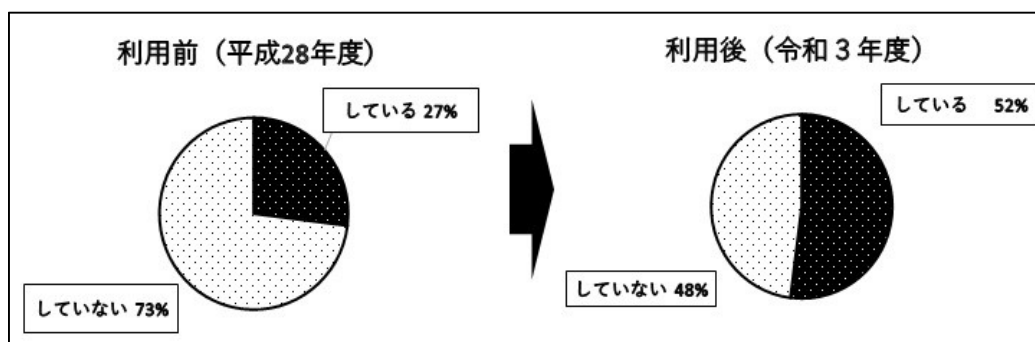


図 15 卒業後の生活についてお子様と話し合いをしていますか？

平成 28 年度に「話し合いをしている」と答えた保護者が 27%であったが、チェックリストを利用することで約 2 倍の 52%に増加した。チェックリストを使用することで伝わりやすくなり、家庭において、子どもと保護者の話し合いにつながったと言える。

③ 教員へのアンケート結果

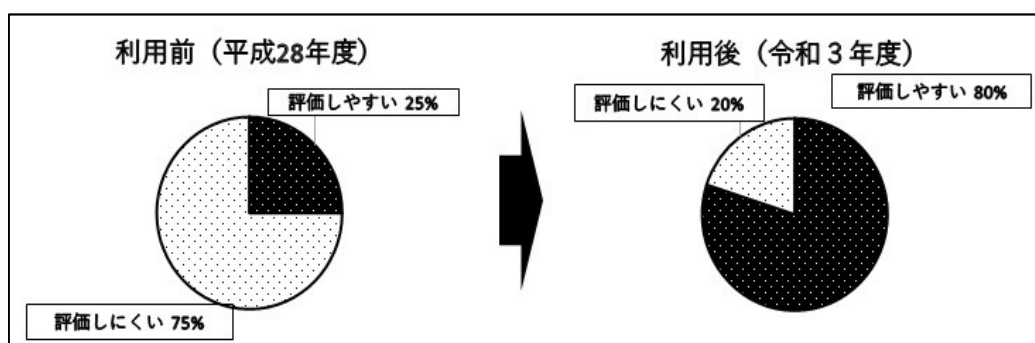


図 16 進路の学習に対する評価はしやすいですか？

平成 28 年度に「評価しやすい」が 25%で、「評価しにくい」と答えた教員が 75%を占めていたが、チェックリストの視点を「個別の指導計画」に取り入れ、就労支援チェックリストで評価することで、80%の教員が進めやすいと回答した。

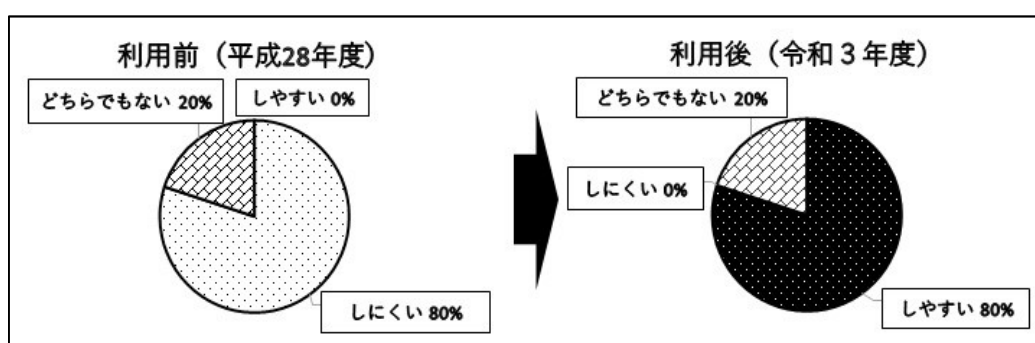


図 17 進路に関する説明を生徒にしやすいですか？

平成 28 年度に「説明しにくい」が 80%を占めていたが、口頭説明とチェックリストを併用したことで「説明しやすい」と80%の教員が回答した。このことにより、教員の説明が、生徒に伝わりやすくなったと考えられる。

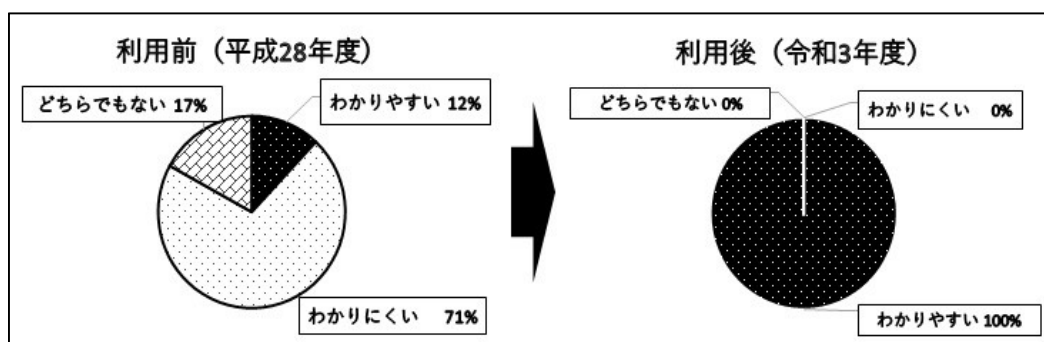


図 18 進路に関する説明が生徒に伝わりやすいと思いますか？

平成 28 年度に「伝わりやすい」が 12%で「伝わりにくい」が 71%「どちらでもない」が 17%であったが、令和 3 年には就労支援チェックリストを使用して説明をすることで、全員の教員が生徒に伝わりやすいと回答した。口頭説明と就労支援チェックリストを併用することで、説明しやすく生徒に伝わりやすいとの結果になった。

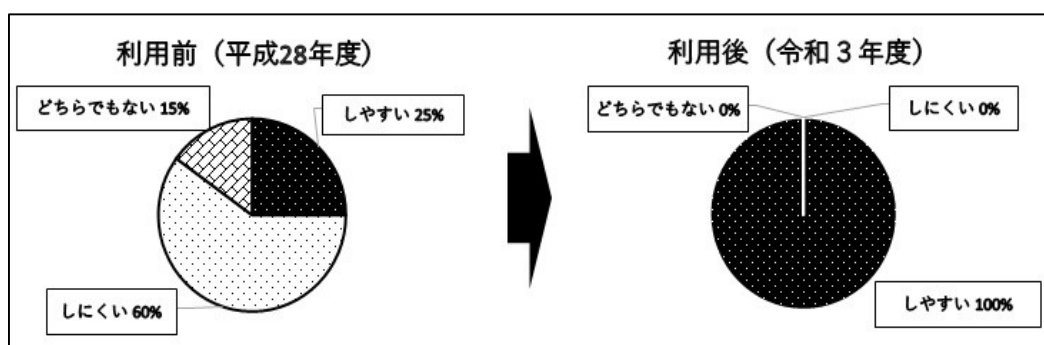


図 19 進路に関する説明を保護者にしやすいですか？

平成 28 年度に「説明しやすい」が 25%で「説明しにくい」が 60%「どちらでもない」が 15%であったが、就労支援チェックリストを使用することで、全員の教員が保護者に説明しやすいと回答した。

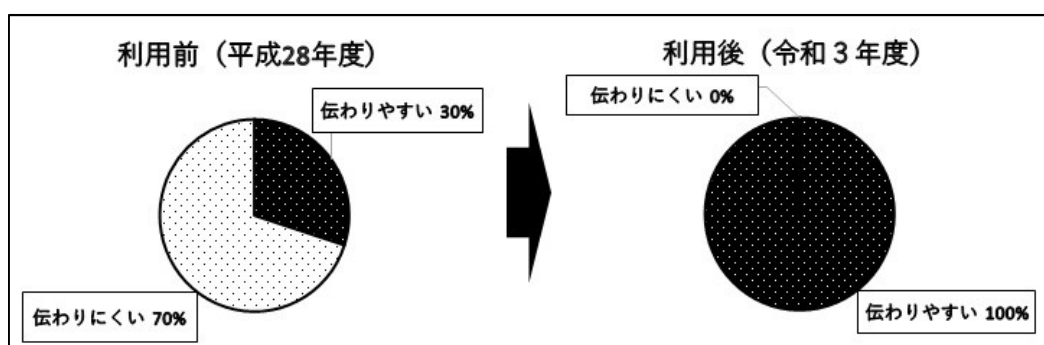


図 20 進路に関する説明は保護者に伝わりやすいと思いますか？

平成 28 年度に「伝わりやすい」と回答した保護者が 30%で「伝わりにくい」が 70%であったが、就労支援チェックリストを使用して説明することで、全員の教員が保護者に伝わりやすいと回答した。

これらのアンケート結果から、就労支援チェックリストを利用することによって、生徒、保護者、教員のそれぞれが生徒の現状を理解しやすく、相互にコミュニケーションも取りやすくなるとの結果となった。生徒は自身の現状を理解しやすく、保護者は子どもを客観的にとらえやすく、結果を子どもと話し合うことができる。教員にとっては、生徒の状況を理解したうえで生徒、保護者に伝えることができる有効なツールとして機能したことがわかった。以上の結果より、就労支援チェックリストを使用することで、話し合いの機会や、自己を見つめ直す機会が増え、自己肯定感の育みに影響を与えたことが推測できる。

第2節 地域貢献活動

1 導入の理由

本校は、昭和 54 年の開校時より「地域との交流教育」を中核に据えて学習活動を展開してきた。本校の周辺には、小学校・中学校・高等学校の他、婦人会、老人会等の様々な住民組織の他に児童福祉施設や障がい者支援施設、就労移行支援施設等、福祉関連施設が存在し、「地域とのつながりを密にした地域に開かれた学校づくり」を推進してきた。

先にも述べたが、本校の生徒は、わずかなコミュニケーションのズレでも逃避し、不安定になる場面が多い。そこで、自己肯定感を育むために、地域貢献活動への参加を導入し、感情のコントロールや自分自身の内面と向き合い、地域の方々に「褒められたり、認められたり、感謝される」機会を増やすことにした。

2 地域貢献活動の位置づけ

本校高等部では、授業で学んだことを地域で生かす活動として「地域貢献活動」を実施している。全ての地域貢献活動は、各教科領域の年間指導計画に位置づけている。

表 4 本校の地域貢献活動（令和 3 年度）

貢献活動	内 容	位置づけた教科領域
藍の刈り取り貢献	藍の刈り取り作業	作業学習（農耕班）
そばの脱穀作業貢献	そばの脱穀作業の手伝い	作業学習（農耕班）
農村舞台設置作業貢献	地域の祭りの舞台設置	作業学習（クリーン班）
手作り石けん	「手作り石けん」をNPO法人の方に寄贈する	総合的な探究の時間
ホットセッションプロジェクト	製作した座布団を駅に設置	作業学習（縫製班）
子ども食堂へクッキー贈呈	クッキーを子ども食堂に贈る	家庭科
無事にカエルプロジェクト	地域の交通安全活動貢献	作業学習（陶芸班、紙すき班）
手作りマスク贈呈	手作りマスクを特別養護老人施設に贈呈	作業学習（縫製班）
清掃貢献	ビルメンテナンス貢献	作業学習（ビルメンテナンス班）
接客貢献	地域交流拠点施設での接客貢献	作業学習（接客班）

現在実施している地域貢献活動は表4（令和3年度）の通りである。藍の刈り取りは作業学習（農耕班）、クッキー貢献は家庭科、クリスマスコンサートは音楽科のように、それぞれ各教科領域等に位置づけて実施している。「地域貢献活動」に参加する意味やメリットを生徒と教員が十分に共通理解するように事前学習を実施している。

3 地域貢献活動の実施状況

（1）藍の刈り取り貢献

地元NPO法人の方々が「町おこし」の一環として取り組んでいる「藍染活動」に参加した。農耕班の生徒が藍の刈り取り作業を手伝って貢献した。事前学習の中で、日時や場所、貢献活動する意味や当日の活動内容を確認した。そのうえで活動内容に必要なスキルである「鎌の使用方法」や「刈り取った藍を束ねて天日干しする方法」などを具体的に学習し、その力を生かして貢献活動を実施した。貢献活動に参加した地域の方々からは「上手に鎌が使えるね」など称賛の言葉をいただき、会話を楽しみながら作業に参加できた。

参加した生徒は、「やさしい人が多くて参加しやすかった」「勉強した通り、鎌が使えたので自信になった」「こんな仕事がしてみたい」と話す生徒が多く、充実した様子であった。



写真1 藍の刈り取り



写真2 藍の刈り取り

（2）農村舞台設置作業貢献

平成15年に徳島県三好郡東みよし町東山字法市で発掘再建された船底舞台である。毎年10月第1日曜日には、人形浄瑠璃を中心とした農村舞台公演が行われている。本校では、地域の舞台公演設置に貢献するために参加した。作業学習では、舞台設置に必要な畳を上げて運搬することや畳の掃き掃除や拭き上げなどを学習して、当日の貢献作業に臨んだ。畳も多く、大変だったが、地域の方々と協力して貢献した。当日、地域の方々からは「畳を上手に運ぶね」「一人で運んで力強いな」「畳がきれいに拭けたな。ありがとう」などたくさんのお褒めの言葉をいただき、生徒たちもその言葉に満足そうな表情を見せ、「うれしい」「畳が協力して運ぶことができた」「また、他のことでも貢献したい」との発言が多く挙がった。



写真3 農村舞台設置（畳運搬）



写真4 農村舞台設置（掃き掃除）

（３）そばの脱穀作業貢献

そばは、地域の傾斜地農耕で農産物として生産されている。そばを刈り取り、乾燥したものを脱穀（茎からはずす作業）して貢献した。事前学習では、日時、場所、作業内容を学習し、作業手順（束ねたそばをコンテナに叩きつける→落ちたそばを回収する）を動画で見せながら、作業手順書を作成し、動作を確認して貢献した。活動に際しては、事前学習の通り自信をもって臨むことができた。



写真5 そばの脱穀作業

（４）手作り石鹼貢献

いつもお世話になっている地域の方々に、廃油を使った石鹼を総合的な探究の時間に製作した。地域の方々に生徒が書いた感謝の手紙と一緒に手渡すと、とても喜んでいただいた。「作業の後の手洗いや道具の洗浄に使わせていただきます。」と直接感謝の気持ちを伝えていただいた。



写真6 手作り石鹼の包装作業

(5) ホットステーションプロジェクト

ホットステーションプロジェクトは、座布団を製作し、本校生徒がいつも利用している JR 阿波池田駅待合室に座布団を置いてもらい、利用者の方々に温かく過ごしていただくためのプロジェクトである。縫製班の生徒が、縫製作業で学んだスキルを生かして貢献した。事前に待合所ベンチの大きさを計測し、布地を裁断し、ミシンで縫い合わせて製作した。当日は、駅長さんに贈呈し、感謝の言葉をいただいた。



写真7 駅長さんに贈呈

(6) 子ども食堂へクッキー贈呈

平成 28 年に徳島県三好市池田町にできた子ども食堂「ぎんざ和団（わい）和団（わい）」さんに、家庭科で製作した「クッキー」を贈った。子ども食堂「ぎんざ和団和団」は、約 30 名の方が利用している。家庭科では、試作、材料の吟味、成型、包装などを学んだ。当日は、直接クッキーを渡してお礼を言っていたいた。



写真8 クッキー贈呈

(7) 手作りマスク贈呈

新型コロナウイルス感染症を心配した生徒の中から、高齢者の方々や重度の障がいの方々へ「自分たちが家庭科で製作したマスク」を贈りたいとの意見がでた。このため、近隣の特別養護老人施設に贈呈した。当日は、施設長様に贈呈し、とても感謝していただいた。後日、利用者の方からもお礼の手紙をいただいた。



写真9 手作りマスク贈呈

(8) 清掃貢献

清掃貢献は、作業学習（ビルメンテナンス班）で学んだことを生かして近隣の福祉施設を清掃する貢献である。徳島県では、とくしま特別支援学校技能検定を実施しており、本校高等部でも、ビルメンテナンス部門に参加している。毎年、技能検定終了後、この貢献を実施している。清掃し感謝されることで自信をもち、技能の般化にもつながっている。



写真 10 清掃貢献

(9) 接客貢献

接客貢献は、作業学習（接客班）で学んだことを生かして地域交流拠点の店舗で接客貢献する活動である。とくしま特別支援学校技能検定の接客部門で学んだ技能の確認と地域貢献のために実施している。清掃貢献と同じく、接客し感謝されて、技能の般化にもつながっている。



写真 11 接客貢献

(10) 無事にカエルプロジェクト

無事にカエルプロジェクトは、地域の交通安全に貢献するために、地元の警察署と協力して、交通安全グッズをショッピングセンターで配布する活動である。陶芸班と紙すき班では、年間計画に位置づけて学習している。陶芸班では、「ペーパーウェイト」、紙すき班では、「交通安全を記載したブックエンド」を製作した。当日、買い物客に手渡しでグッズを配布すると「交通安全に気をつけるね」などの返事をもらったり、「ありがとう」「ごころうさま」など感謝の言葉を直接いただいた。終了後は警察署の方からも「ありがとう」「来年もお願いします」とお礼の言葉をいただいて充実した活動になった。



写真 12 無事にカエルプロジェクト

4 アンケート結果とまとめ

地域貢献活動を実施前と実施後でアンケートを実施した。

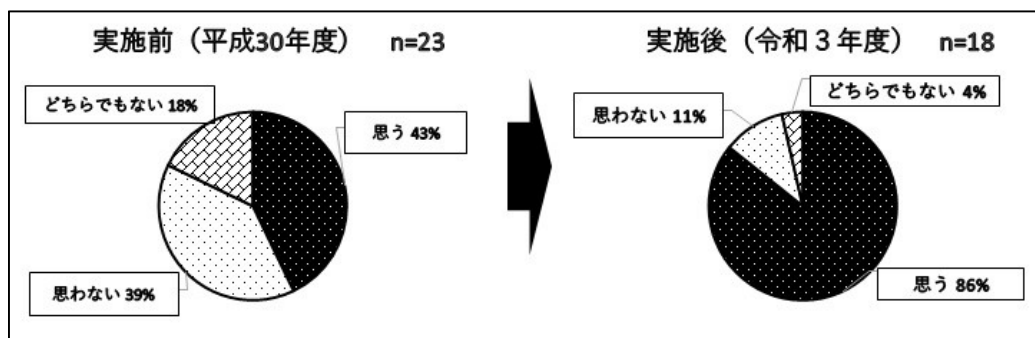


図 21 あなたは、貢献活動のメンバーに選ばれて良かったと思いますか？

図 21 の結果によれば、貢献活動のメンバーに選ばれて良かったと思う生徒が、実施前の 43% から実施後は 86% に倍増した。また、貢献活動のメンバーに選ばれて良かったと思わない生徒は 39% から 11% へと大幅に減少した。

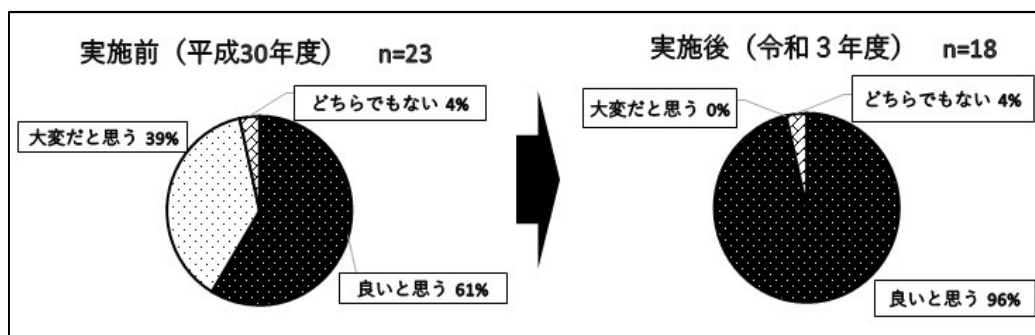


図 22 今回、授業で学んだことで貢献することをどう思いますか？

図 22 の結果によれば、授業で学んだことで貢献することを「良いと思う」と回答した生徒が、実施前の 61% から実施後は 93% に増加した。また、「大変だと思う」と回答した生徒が実施前の 39% から実施後は 0% となった。

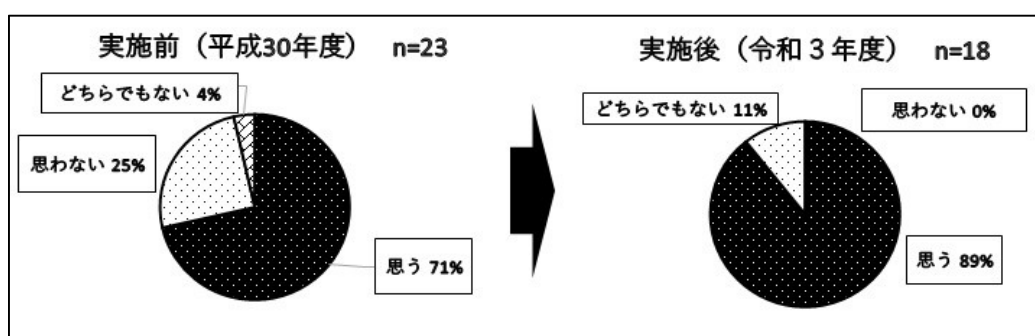


図 23 今回の活動で利用している方は喜んでくれると思いますか？

図 23 の結果によれば、授業で学んだことで貢献することを「喜んでくれると思う」と回答した生徒が、実施前の 71% から実施後は 89% に増加した。また、「喜んでくれると思わない」と回答した生徒が実施前の 25% から実施後は 0% となった。

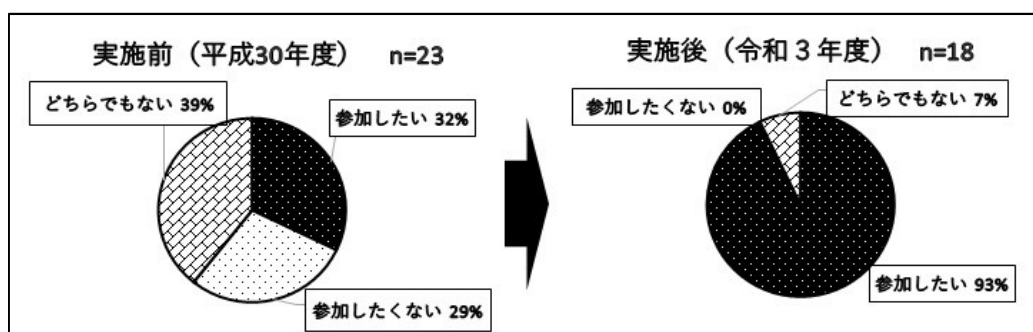


図 24 今後も違う形でも地域貢献に参加したいと思いますか？

図 24 の結果によれば、今後も違う形で地域貢献に「参加したい」と回答した生徒が、実施前の 32% から実施後は 93% に増加した。また、「参加したくない」と回答した生徒が実施前の 29% から実施後は 0% となった。

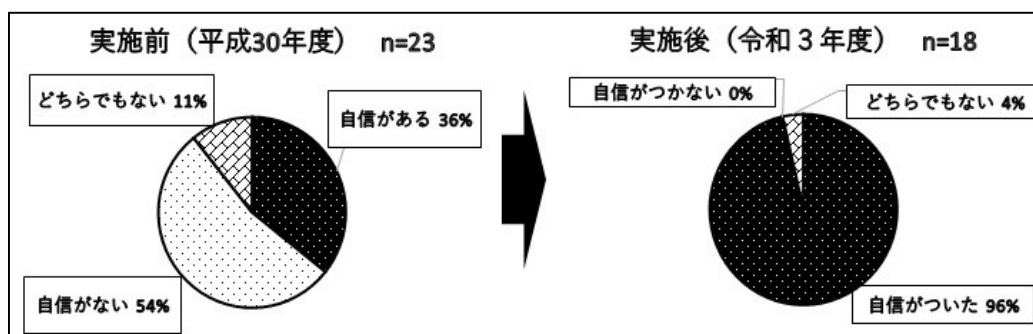


図 25 自分に自信ができましたか？

図 25 の結果によれば、元来、自分に自信がある生徒が 36% であったが、実施後は 96% の生徒が自信がついたとの結果になり、地域貢献活動に参加することによって生徒の自己肯定感に明らかな変容が見られた。

これらのアンケート結果より、地域貢献活動に参加することに喜びを感じたり、授業の中で地域貢献活動の学習をすることに積極的になったりしたことで、今後も地域貢献の機会があれば参加したいと思う生徒が増加していることにつながっている。

第 3 節 自分ノート（キャリア・パスポート）

1 キャリア・パスポートの導入について

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。⁴⁾

なお、「その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。」⁴⁾とあ

る。また、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」⁴⁾とされている。

そこで、生徒自身が学習しようとする内容に目標を持ちやすく、活動内容を記録し、振り返ることができる「キャリア・パスポート」を導入することにした。高等部のキャリア・パスポートは「自分ノート」と命名し、高等部の生徒が記入しやすい形に修正して利用することにした。

2 本校の「自分ノート」について

基本的には、学年進行で構成されている。ここでは、1年を例（図 27～32）に紹介する。

（１）「自分ノート」の構成

① 図 26 について（1年生のみなさんへ）

このページは、高等部 1 年間の学校行事や学んでほしい 4 つについて伝えるページである。生徒が目標を考えるための参考にするページである。

② 図 27 について（高等部の生活がはじまりました）

このページは、自分の好きなこと、得意なこと、将来の夢を記入し、「こんな自分になりたい」目標を考えるページである。また、自分の目標の他に学級でがんばりたいことも目標として考え、これらの目標について、先生と保護者からポジティブなコメントをもらうことになる。

③ 図 28 について（1年生前期を振り返りましょう）

このページは、1 年生前期に生徒が立てた目標に対して学校や家でがんばったことを評価するページである。自分が成長したと感ずることについても記入し、その評価について、先生と保護者からコメントをもらう。そのコメントを受けて、後期の自分に対してのメッセージを自分自身で記入する。

④ 図 29 について（1年生後期を振り返りましょう）

このページは、1 年生後期を振り返るページである。後期に学校や家でがんばったことを評価するページである。後期の自分へのメッセージを記入する。

⑤ 図 30 について（1年生 1 年間を振り返りましょう①）

1 年間を振り返り、なりたい自分にどれだけ近づけたかを記入する。学校の学習や生活、家でのことを記入する。最初に学んでほしい 4 つのことについて自己評価する。

⑥ 図 31 について（1年生 1 年間を振り返りましょう②）

このページは、1 年間で楽しかったことやこの 1 年でできるようになったことを書くページである。また、2 年生ではどうなりたいたいのかを宣言するページである。この宣言に対して、先生と保護者からコメントをもらう。

1年生のみなさんへ

いよいよ高等部での生活がはじまりました。

だれとでも仲良く、協力して生活できるように、先生たちは応援しています。

このパスポートに、一年の目標や振り返りを記入することで、みなさんに自分の成長を感じ取ってほしいと願っています。先生たちもこのパスポートを見ながら、みなさんの成長を見守っていきます。

キャリアパスポートにみなさんの成長を記録していきます！

入学式	前回の振り返り	学期のはじめ	就業体験	1年のふりかえり	2年生に
-----	---------	--------	------	----------	------

1年生でがんばってほしいこと

高等部生活で身に付けてほしい力を、4つにまとめました。参考してください。

友達と仲良くしよう！ 友だちと仲良くしよう！ 勉強や運動なんでも仲良くがんばろう！ 勉強や運動なんでも仲良くがんばろう！	わからないことは質問しよう！ みんなが助けてくれます。どんどん質問しよう！ Oすすんで勉強や手伝いをしよう！ Oすすんで勉強や手伝いをしよう！
---	--

1年生のみなさんへ

図 26 自分ノート ①

高等部での生活がはじまりました

今の私について考えてみましょう。

自分の良いところ・得意なこと

好きなこと・今夢中になっていること

将来の夢

こんな自分になりたい！！

こんな自分になりたい (学習)	そのためにすること
(生活)	
(家)	

みんな(学級)のためにがんばりたいこと

先生から

家の人などから

図 27 自分ノート ②

- 21 -

なまえ
名前

1年生前期を振り返りましょう

〇なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう。

*蹴 労 支援 チェックリストの結果を参 考にしましょう。

がつこう
第1格で
(学 習)

がんばったこと

せいかつ
(生 活)

いえ
家で

がんばったこと（手伝い）

1 前期のことを 思い出して 書きましょう

どのくらいできたか、〇をつけましょう。

①自分の気持ちを友 達に伝えることができたか。

②友 だちと協 力でできましたか。

③わからないことを自分で調 べましたか。

④自分の 目標 や夢に向かって勉 強を工夫できましたか。

前期、自分が成 長したと感 じること

先生から

家の人などから

後期の自分へのメッセージ

影 響を受けた出来事

図 28 自 分 ノ ー ト ③

なまえ
名前

1年生後期を振り返りましょう

〇なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう。

*蹴 労 支援 チェックリストの結果や前期の振り返りを参 考にしましょう。

がつこう
第2格で
(学 習)

がんばったこと

せいかつ
(生 活)

いえ
家で

がんばったこと（手伝い）

1 後期のことを 思い出して 書きましょう

どのくらいできたか、〇をつけましょう。

①自分の気持ちを友 達に伝えることができたか。

②友 だちと協 力でできましたか。

③わからないことを自分で調 べましたか。

④自分の 目標 や夢に向かって勉 強を工夫できましたか。

後期、自分が成 長したと感 じること

先生から

家の人などから

自分のメッセージ

影 響を受けた出来事

図 29 自 分 ノ ー ト ④

- 22 -

氏名 1年生1年間を振り返りましょう	なまえ 名前				
○なりたい自分にどれだけ近づけたか、振り返りましょう。 ※親・友達・支援チャットリストの結束や前期末の振り返りを参考にしましょう。					
1 1年間を振り返りましょう	思い出して 書きましょう	よくできた	できた	少し	すこ
①友とどのくらい仲良くできましたか。	友とどのくらい仲良くできましたか。				
②初めてのことにチャレンジしましたか。	初めてのことにチャレンジしましたか。				
③わからないことは質問できましたか。	わからないことは質問できましたか。				
④すすんで質問や勉強ができましたか。	すすんで質問や勉強ができましたか。				

2 この1年で、一番楽しかったことと、理由を書きましょう。

3 この1年で、できるようになったことをたくさん書きましょう。

4 どんな2年生になりたいですか。宣言しましょう！！

先生から

家の人などから

図 30 自分／一／5

图 31 自分流上 ⑥

また、これ以外に学校行事や就業体験などの記録もしている。この記録は、①から⑥までの各ページの記入を補助するための資料となり、記入をしやすくするためのものである。最終的には3年間を振り返ることで成長を促すものである。

(2)「自分ノート」の特徴

本校の「自分ノート」は、生徒が自分の活動を記録し、見通しをもって目標を計画できるような構成にしている。特に配慮した点については、保護者及び施設職員のコメント欄を頻繁に設けている。それは、生徒がどのように自分の目標を設定し、どのように振り返っているのかを確認、コメントするためである。生徒自身がどのような方向性をもって目標設定し、考えているかを確認してもらうためでもある。コメント欄の記入については、ポジティブ（肯定的）なコメントを記入していただくように、保護者に通知し依頼している。

(3)「自分ノート」の利用方法

「自分ノート」の利用方法については、以下のように決めている。

- ・「自分ノート」は、特別活動の授業で活用する。（但し、就業体験及び学校行事などの記録については、職業の授業でも活用する。）
- ・「自分ノート」は、生徒との対話をしながら、目標を設定し活動を振り返り、記録した後、保護者にコメント記入を依頼する。保護者のコメントは、肯定的な表現にできるよう願います。
- ・保護者へのコメント依頼は、4月下旬、前期終了前、後期終了前とする。
- ・文字で記入できない生徒は、写真等を利用して記入する。

3 「自分ノート」の活用事例

(1) 目標設定

特別活動の授業で学んだことを生かして、なりたい自分への目標を立てる。前期・後期でも同様に目標を立てる。実際に授業の中で学び、具体的に目標設定できるように、ICT機器も利用している。

写真14によれば、前期就業体験の学年全体の目標シートでは、『作業してみても働くことがどんなことか感じる。』『自分がどんな仕事に向いているかを知る』と記入している。この生徒は1学年であるため、このような目標を記入している。

そこで前期就業体験で大切なことは、『ルールを守る』『注意されたことを素直に聞く』『わからないことは先生に聞く』としている。そこで、組み立て班・ビルメンテナンス班として『組み立てで不良品をゼロにする』『ビルメンは最後までがんばる』と目標を立てている。

写真14 自分ノート（目標シート）

(2) 振り返り

写真 15 によれば、目標に対して達成できたことや、がんばったことは、『組み立てで不良品をゼロにする』『ビルメンは最後までがんばる』を達成できたことを前期就業体験報告会で発表できたことを振り返っている。この生徒は、前期就業体験中に病気入院することになり、後半参加できなかったため、体調管理の大切さが心に残ったと振り返っている。これからの学校生活には、体調管理に心がけ、後期就業体験ではより頑張ることを振り返ることができている。教員と振り返りながら、後期就業体験にポジティブに取り組めるようなアドバイスや生徒の記入に補足するようなコメントが記入されている。

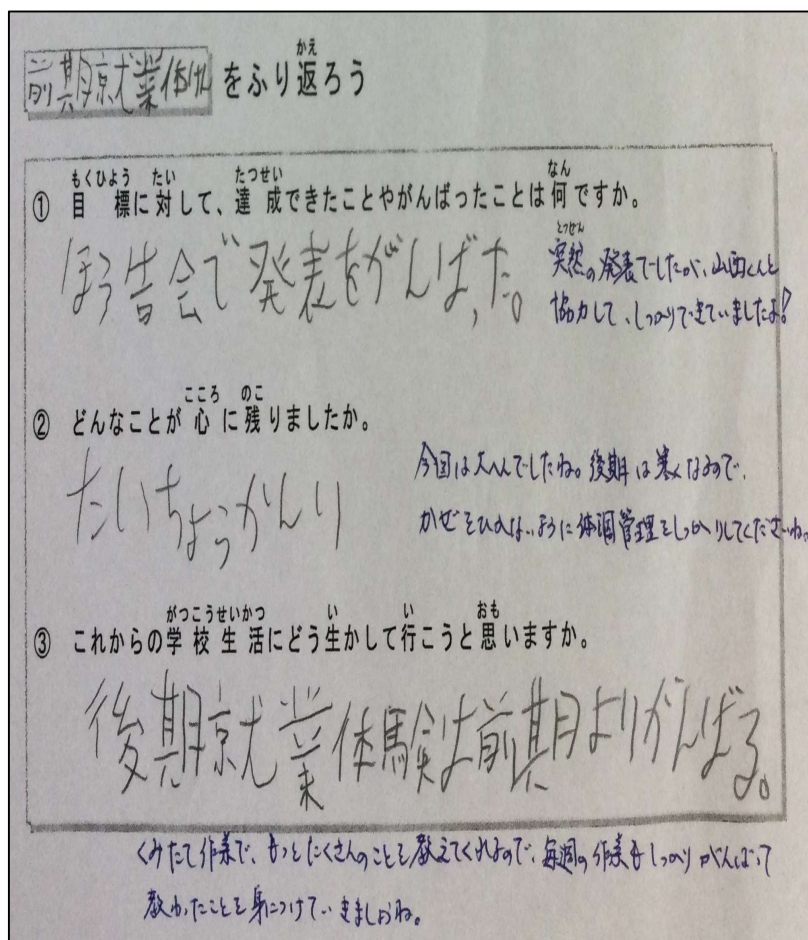


写真 15 自分ノート（振り返り）

4 アンケート結果とまとめ

(1) アンケート結果

「自分ノートは目標を立てやすいですか」との質問には「立てやすい」が 71%、「立てにくい」が 29%となった（図 32）。立てやすい理由として、「こんな自分になりたいところが、学習・生活・家に分かれていたので書きやすかった。」との意見があった。

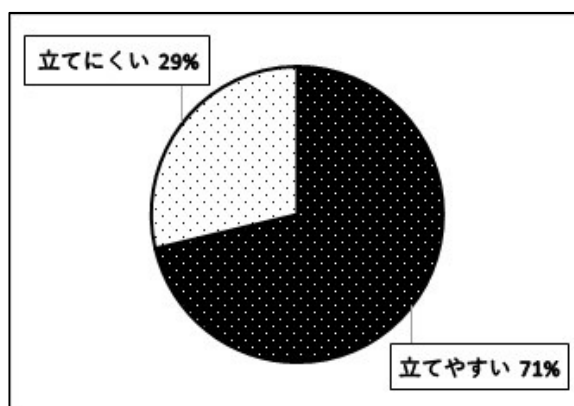


図 32 自分ノートは目標を立てやすいですか

「自分ノートで相談することができましたか」との質問には「できた」が64%、「できなかった」が36%となった（図33）。相談できた人が増加し、「特に担任に相談しやすかった」との意見が多かった。

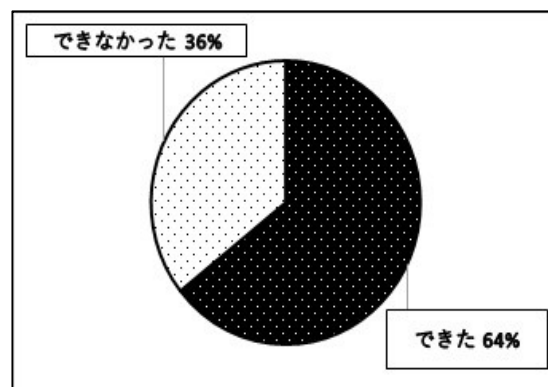


図 33 自分ノートで相談することができましたか

「自分の将来を考えるために必要だと思いますか」との質問には、「思う」は86%、「思わない」は7%であった（図34）。理由としては、「自分ノートで振り返り、考えることができるから」「自分の夢を考える機会になった」「自分の得意なこと・苦手なことが整理できるから」の意見があった。

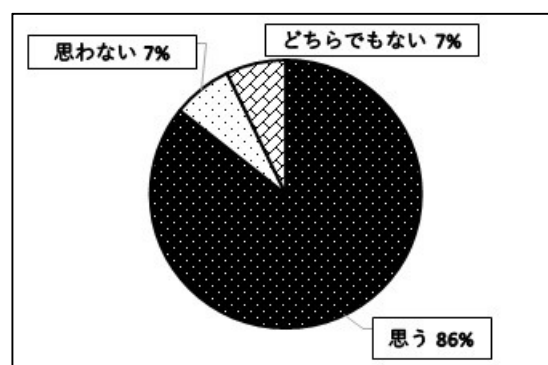


図 34 自分の将来を考えるために必要だと思いますか

「自分ノートを書くことで自分のためになったと思いますか」との質問には、「なった」57%、「ならなかった」14%、「どちらでもない」29%であった（図35）。「目標を立てたことで自信がもてた」「振り返ることがしやすかった」の意見があった。

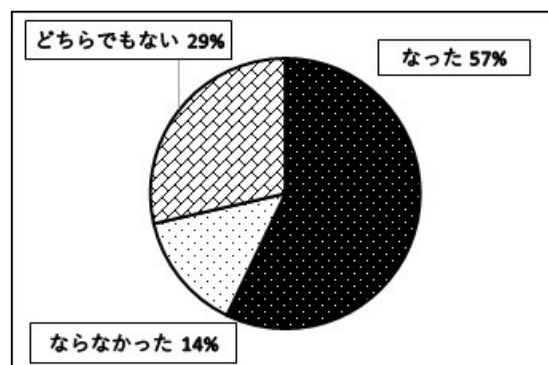


図 35 自分ノートを書くことで自分のためになったと思いますか

（１） まとめ（アンケート結果より）

- ① 目標を立てるときは、イメージを持てやすくするため I C T 機器や視聴覚機器を使用する方が目標を立てやすい。
- ② 自分ノートを使用することで、教員と相談できることが増加する。
- ③ 生徒が自分の将来を考えるのに、自分ノートは有効である。
- ④ 自分ノートを使用することで目標と振り返りをしやすい。
- ⑤ 自分ノートを使用することで、自分の得意・不得意を理解しやすい。
- ⑥ 自分ノートを使用することで、自信をもちやすい。

以上のことから、自分ノートを使用することで自己理解や自信につながり、「自己肯定感」を育むことにつながったと言える。

第4節 GJ（グッドジョブ）カード

夏期休業中に、岡山県倉敷市立西中学校 松本一郎校長の研修において、「生徒に勇気を！学校にミラクルを！」～PBI S（Positive Behavioral Interventions and Supports）で、笑顔あふれる学校に～⁹⁾と題して講演が行われた。その中で、GB（good behavior）チケットを使用して中学生がポジティブ行動支援を実践したお話があった。

そこで、本校高等部でも、令和3年10月より、「GJ（グッドジョブ）カード」として、活用することにした。生徒の自発的・主体的な活動に対して、教員が生徒に感謝し手渡し活動を実践し自己肯定感を育む活動を実践した（写真17）。



写真16 GJ（グッドジョブ）カード



写真17 カード手渡しの様子

その結果、次のような結果（図36）となった。第1期ベースラインは、GJ（グッドジョブ）カードを活用する前の生徒の自発的・主体的な活動の出現回数であり、7回／日であった。第2期は、学部集会で生徒にGJ（グッドジョブ）カードを紹介後の出現回数で、33回／日と大幅に増加し、その後、第3期では38回／日とさらに増加をみた。

この結果から、明らかに生徒の自発的・主体的な行動の増加がみられ、自己肯定感を育む機会が増加したことから、GJ（グッドジョブ）カードには効果があったと言える。

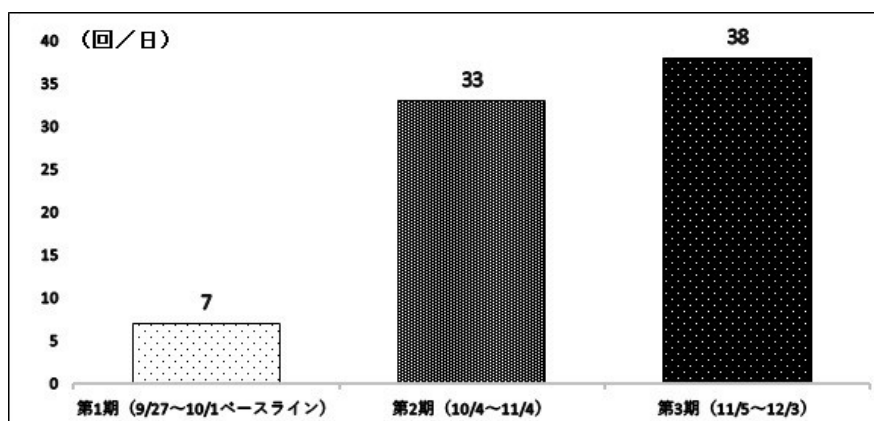


図36 GJ（グッドジョブ）カードを使った自発的行動の変化

第4章 考察

第1節 「自己評価シート」の結果

「自己評価シート」については、活動実施前の令和3年4月と活動実施後の令和3年12月に実施した。自己肯定感を構成する3観点である「A 自己評価・自己受容」、「B 関係の中での自己」、「C 自己主張・自己決定」¹⁾を中心に以下に示す。

1 集団傾向の変化

図37によれば、高等部全体において4月と12月の自己評価を比較すると「A 自己評価・自己受容」、「B 関係の中での自己」、「C 自己主張・自己決定」のすべての項目が向上している。特に、質問7「自分はダメな人間だと思ふことがある」、質問18「私は自分のことは自分で決めたいと思う」の回答が大幅に改善されており、高等部全体で自己肯定感が育まれている。この結果

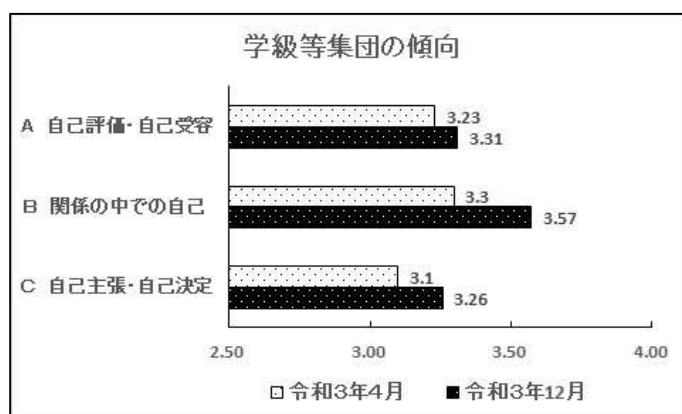


図37 自己評価による集団傾向の変化³⁾

から、「就労支援チェックリスト」「地域貢献活動」「自分ノート」「G J（グッドジョブ）カード」などの実践が高等部全体の自己肯定感の育みにつながったと考えられる。

2 個別傾向の変化（2事例より）

自己評価による個別傾向の結果について、2事例を紹介する。この2事例は、自己肯定感の改善が顕著であり、後述するが、働く力の向上や就労につながった事例である。

図38は、高等部3学年Aの事例である。Aの4月と12月を比較すると、「A 自己評価・自己受容」が向上している。「A 自己評価・自己受容」は教師との関係に大きく影響し、教員からの評価や言葉掛けや「G J（グッドジョブ）カード」による直接的な評価や「自分ノート」による教員との対話が大きく影響を与えていると考えられる。

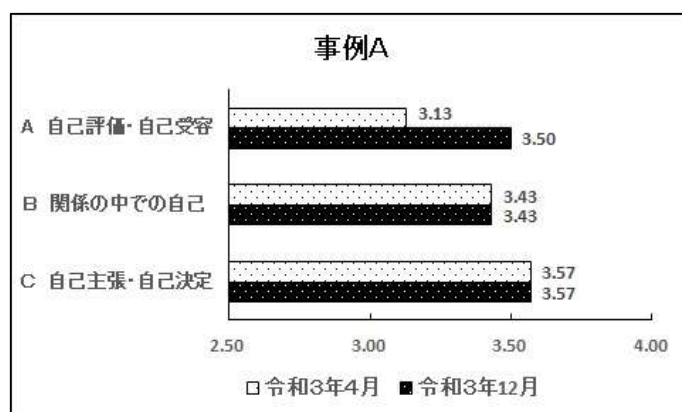


図38 自己評価による個別傾向の変化（事例A）

図 39 は、高等部 1 学年 B の事例である。B の 4 月と 12 月を比較すると、「C 自己主張・自己決定」が向上している。「C 自己主張・自己決定」は、今の自分を受け止め、自分の可能性に気付く「自分ノート」、「就労支援チェックリスト」により自己理解を促進したことが考えられる。

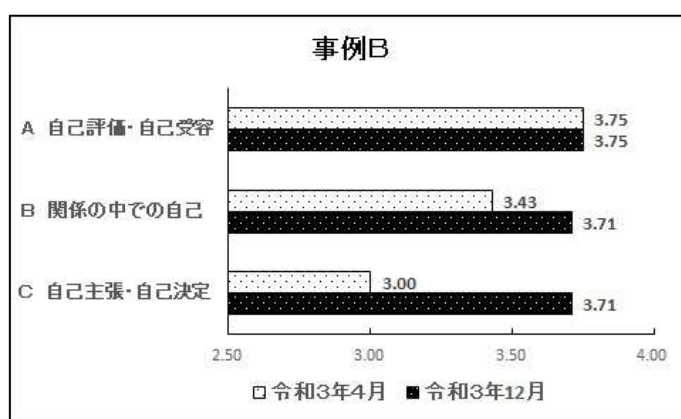


図 39 自己評価による個別傾向の変化（事例 B）

第 2 節 「他者評価シート」の結果

「他者評価シート」についても、活動実施前の令和 3 年 4 月と活動実施後の令和 3 年 12 月に実施した。評価は、担任教員が実施した。安定した学校生活を送るための 6 つの観点「人への働き掛け」「大人との関係」「友達との関係」「落ち着き」「意欲」「場に合わせた行動」¹⁾により、他者評価による集団傾向及び個別傾向の変化（自己評価と同じ 2 事例）の結果を示す。

1 集団傾向の変化

図 40 によれば、高等部全体において 4 月と 12 月の他者評価を比較すると、すべての点で向上している。特に、それに伴って、毎日の授業態度や心の安定していることを実感することが多くなった。

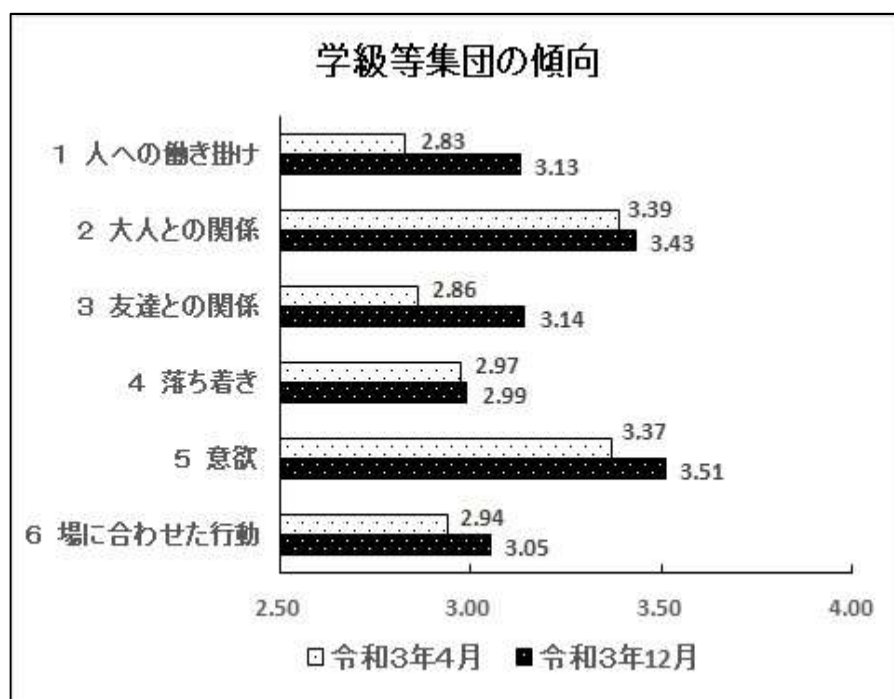


図 40 他者評価による集団傾向の変化³⁾

表 1 に示した精神的な不安定による保健室利用の利用率は、令和 3 年度では、12 月末時点 11.5%（図 41）となっており、精神的に不安定になる生徒が減少しており、今回の実践が自己肯定感の育みにつながっていると感じている。

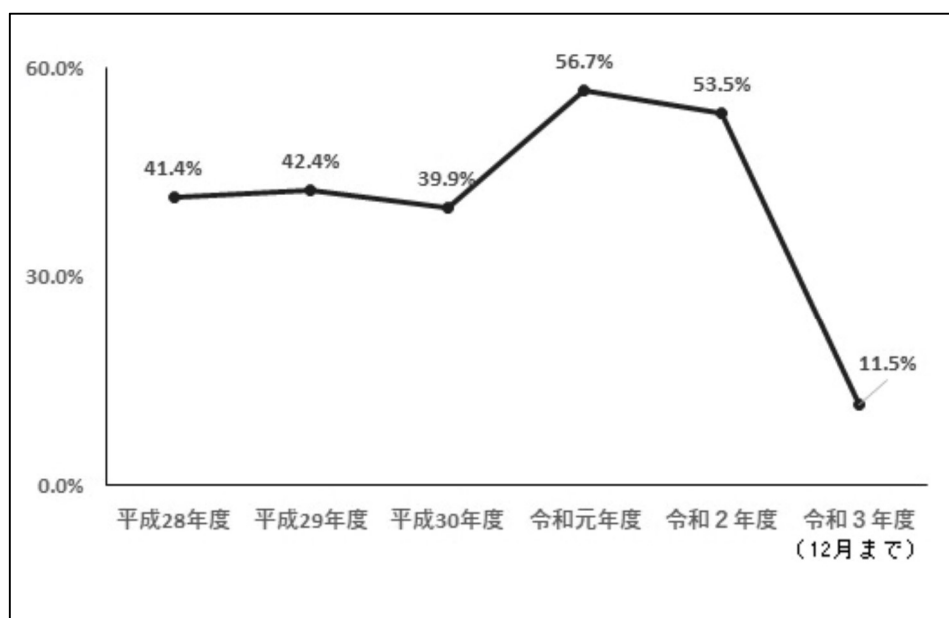


図 41 保健室利用数に占める精神的理由による利用率の変化

2 個別傾向の変化（2 事例より）

他者評価による個別傾向の結果について、2 事例（図 42、図 43）を紹介する。この 2 事例は、図 38、図 39 の自己評価による個別傾向の変化を示した事例と同一生徒である。

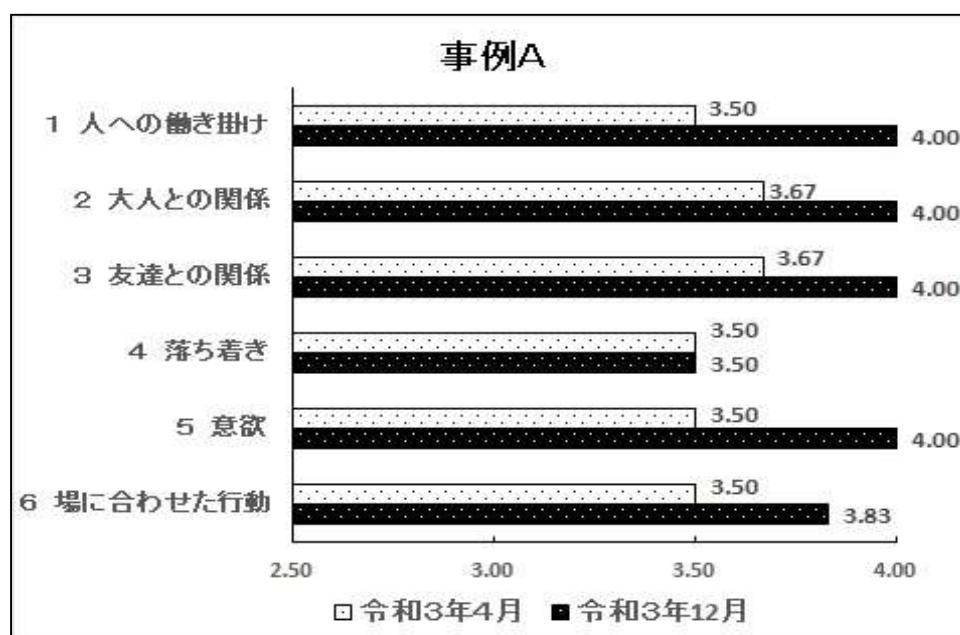


図 42 他者評価による個別傾向の変化（事例 A）

図 42 によれば、「4 落ち着き」以外の観点が向上しているが、「1 人への働き掛け」、「5 意欲」などが特に向上している。Aは、「自分ノート」での目標設定・振り返りも丁寧で「地域貢献活動」にも積極的に参加し、他者評価からも学校生活が安定していることが伺える。就業体験では、スーパーマーケットでの実習を経験し、就職できる予定である。

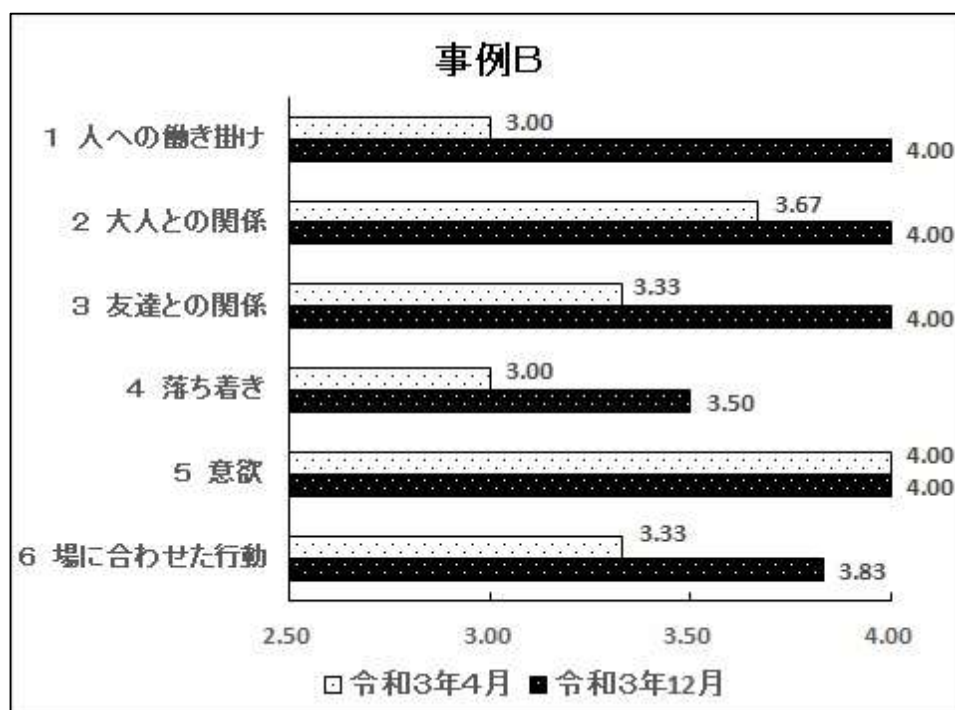


図 43 他者評価による個別傾向の変化（事例B）

図 43 によれば、各観点とも向上しているが、「1 人への働き掛け」、「3 友達との関係」「4 落ち着き」、「6 場に合わせた行動」などが特に向上している。Bは、所属学級での友達関係が良好で、「自分ノート」での教員との振り返りで会話をし、「地域貢献活動」にも積極的に参加する様子からも学校生活が充実していることが伺える。後期就業体験では、校内実習を休みなく経験し、働く場での行動や態度の評価も向上した。

第3節 自己肯定感の向上から就労する力に

前述した事例Aの「自己評価シート」「他者評価シート」及び「就労支援チェックリスト」の関連性を比較検討し、自己肯定感の向上が就労する力につながることを考察する。

図44は、Aの自己肯定感の成長項目と「就労支援チェックリスト」の向上した項目を抽出し相互関連を示した図である。

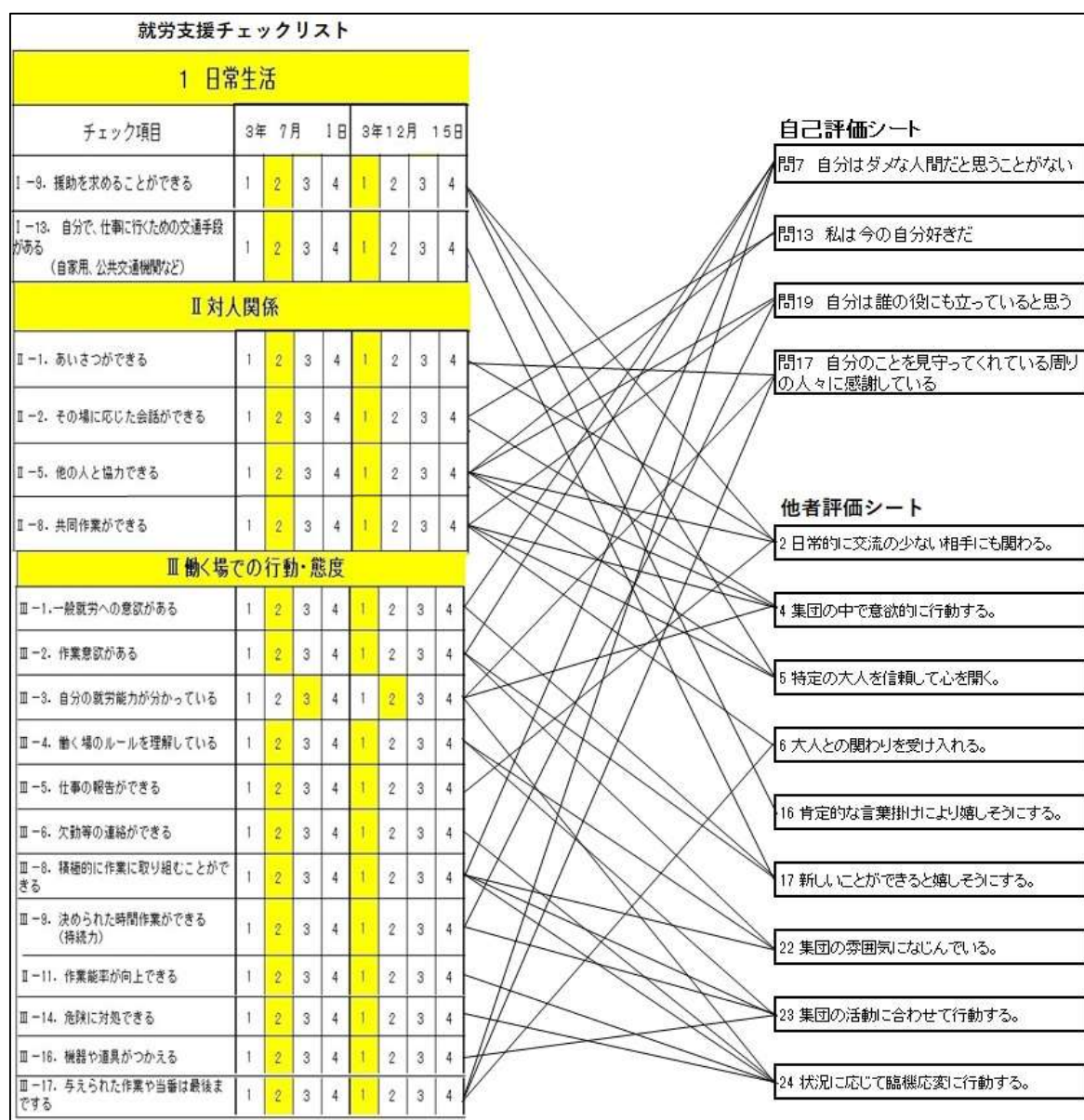


図44 自己肯定感と就労支援チェックリストの関連図

図44から関連することを検討すると次のようなことが考えられる。

- ・自己肯定感を育むことで、就労する力につながる可能性がある。
- ・自己肯定感の中でも、対人関係を高めることが就労につながる可能性がある。
- ・自己肯定感の中でも、集団活動や集団生活を高めることが就労につながる可能性がある。

第5章 おわりに

前章までに記したように「知的障害特別支援学校における自己肯定感の向上を目指した実践—就労につなげるために—」というテーマで研究実践に取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が大きく制限され、事例も2人のみとなったことは残念である。

就労の力を測る「就労支援チェックリスト」は、個別の指導計画に確実に位置づけ、生徒本人の自己理解につなげていきたいと考えている。地域貢献活動は、授業で学んだことを般化する場面として、学校で学び、社会で試す場として校内でシステム化を図りたいと考えている。「自分ノート」は、生徒自身が自分の成長を実感し、着実に歩み続ける記録にしていきたいと考えている。GJ（グッドジョブ）カードは、いつも前向きに進むための自信につなげ、自ら考え行動できる人になるために活用していきたいと考えている。

これからも、自己肯定感を育み、対人関係を育み、集団や地域社会の中で生きていける生徒の成長を見守り、生徒が自己肯定感を育むのに必要な環境づくりと人材づくりに精進したいと考えている。

（引用文献・参考文献）

- 1) 東京都教職員研修センター（2008～2012）：自尊感情や自己肯定感に関する研究（1年次～5年次）
- 2) 徳島県西部就労支援部会（2016）：徳島県西部版就労支援チェックリスト、1-6
- 3) 東京都教職員研修センター（2011）：自己評価シート・他者評価シートより一部改変
- 4) 文部科学省（2019）：「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項、1-2
- 5) 文部科学省（2019）：「キャリア・パスポート」例示資料等について
- 6) 徳島県教育委員会（2018）：徳島県教育振興計画（第3期）
- 7) 近藤卓（2016）：子どものこころのセーフティネット—二つの自尊感情と共有体験—少年写真新聞社
- 8) 文部科学省（2021）：「キャリア・パスポート」Q&Aについて
- 9) 松本一郎（2021）：「生徒に勇気を！学校にミラクルを！」～PBI S（Positive Behavioral Interventions and Supports）で、笑顔あふれる学校に～、講演資料

謝辞

この度、このような研究の機会を与えてくださり、研究助成をしていただきました公益財団法人みずほ教育福祉財団に深く御礼申し上げます。また、本研究を特別支援教育研究助成論文としてご推薦いただいた独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の皆様にも感謝申し上げます。

本研究を行うにあたり、協力していただいた高等部の生徒及びアンケートなどに協力していただいた保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

そして、最後に、本研究の計画から論文作成まで独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の廣島慎一先生には、心より御礼申し上げます。

知的障害特別支援学校の生徒と関わるようになって、20年あまり経ちます。近年実践してきたことを整理し、生徒の健やかな成長を図るためには、生徒の自己肯定感を育むことが大切であることを再確認することができました。これからの学校での実践に生かしたいと思っています。